

ブロッコリー、カリフラワーは、比較的冷涼な気候を好み、7～8月に播種し、秋収穫が一般的です。べと病、黒腐病が重要病害で、害虫ではアブラムシ、コナガ、ヨトウムシなどによる被害があります。

病害編

注意する病気と対策

① 黒腐病の病原菌は 土壌中に生息している

アブラナ科野菜に共通して発生する細菌による病害で、秋期で雨が多く気温の高い時期に発生します。病原菌は土壌中に生息しており、降雨によって土が跳ね上げられ、傷口から感染します。被害葉では葉の縁に不正型、V字型の黄色の大きな病斑ができ葉脈に沿って広がり、やがて黒褐色に変色します。病勢が進むと葉の中央部にも広がり、花蕾に発生すると侵された部分が黒変して腐敗

します。アブラナ科野菜を連作すると被害が増加します。防除薬剤としてヨネポン水和剤がカリフラワー、ブロッコリーに、カスミンボルドー、カッパーシン水和剤がブロッコリーに利用できます。

② べと病の症状

気温が低く雨の多い時期に発生します。はじめ葉に不整形の暗緑色小斑点ができ、拡大して淡黄色の病斑ができます。葉の表面ではぼやけた黄色病斑ですが、葉裏では葉脈で仕切られた角形病斑になります。また、花蕾でも黒褐色の斑点ができ、水浸状になって広がり、花蕾の一部が腐敗したり奇形になります。べと病は、キャベツのべと病と同

じ系統の病原菌で、キャベツにべと病が発生していると注意が必要です。防除対策として、ブロッコリー、カリフラワーではダコニール1000を発病前から散布します。ブロッコリーではレーバスフロアブル、ライメイフロアブルの散布が効果的です。また、育苗期～生育期にかけて垂リン酸液肥（ホストマト）の葉面散布、粒剤の施用が被害軽減に効果的です。

③ 花蕾部に発生が多い 軟腐病

被害は年中見られますが、気温の高い9～10月にかけて被害が多く、主に花蕾部に被害が発生します。はじめ被害部分が水浸状になって変色

し、やがてあめ色になって腐敗します。高温時では、腐敗部分が悪臭を生じます。防除薬剤としてスターナ水和剤がブロッコリー、カリフラワーに利用できます。

④ 黒斑細菌病はアブラナ科 野菜に共通して感染する

春期、秋期に被害が多く見られる病害で、病原菌はアブラナ科野菜に共通して感染します。病原菌は気孔や傷口から感染する細菌で、初期は葉、葉柄、花梗などに小さな水浸状小斑点が生じ、融合して拡大し、中央部が淡褐色、周辺が黄褐色、灰褐色の不整形病斑ができます。病斑が多数できると葉が変形して奇形になったり、先端部が枯死します。

病原菌は土壌中に生存しており、育苗用土、ポットなどの栽培資材から伝染するので、発病圃場では注意します。

被害が発生した時は、ブロッコリーではキノンドー水和剤40を発病初期に散布します。



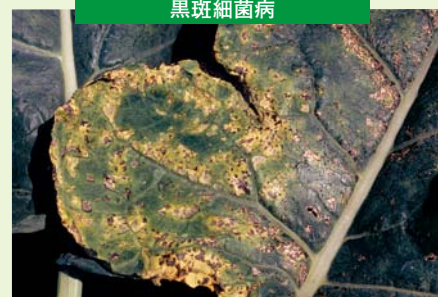
黒腐病



べと病



軟腐病



黒斑細菌病

(駒田旦 原図)

害虫編

注意が必要な害虫とは!?

① アブラムシ類の防除

葉裏に体長1〜2mmで淡緑色または桃色のモモアカアブラムシ、暗緑色のニセダイコンアブラムシ、白色で粉をかぶったようなダイコンアブラムシなどが9〜10月に発生します。アブラムシはモザイク病を伝染するので防除は欠かせません。アブラムシの飛来が多い時期には防虫ネットを被せることが重要です。育苗期や定植直後に目合い1mm程度の防虫ネットでトンネルがけするとよいでしょう。また、畝面のシルバーポリマルチも効果的です。毎年発生が見られる場合は、ブロッコリーでは育苗期後半から定植時にダントツ粒剤、

スタークル粒剤、アルバリン粒剤など、カリフラワーでは育苗期後半にアクトラ粒剤5を施用すると薬剤が根から吸収されてアブラムシに効果を示します。
発生が多い場合にはアクトラ顆粒水溶剤、ウララDFなどをていねいに散布します。

② コナガ、アオムシ(モンシロチョウ幼虫)の食害を防ぐには

幼虫の体長はコナガが1・5cm、アオムシが3〜4cmで、夏まきでは9〜11月に発生します。幼虫が葉を食害し、コナガは主に芯の部分を、アオムシは葉全体を食害します。発生が多い場合には、葉がほとんど食べられてしまいます。毎年発生が多い所では、定植直後に防虫ネットをトンネルがけて産卵を防ぐとともに、アオムシは手で捕殺します。薬

剤は、ブロッコリーでは育苗期後半から定植当日にセル成型トレイの上からプレバソンフロアブル5を灌注処理します。発生が多い場合には、アフアーム乳剤、プレバソンフロアブル5、スピノエース顆粒水和剤などを散布します。

③ 8〜9月に発生するハイマダラノメイガ

夏まきでは、育苗期から定植直後の8〜9月に発生します。体長1〜1・5cm程度の幼虫が芯の部分を食害し、発生が多いと芯が完全に食べられて、生育が止まります。毎年、発生が多い所では、防虫ネットをトンネルがけて産卵を防ぎます。薬剤は、ブロッコリーでは育苗期後半から定植当日にセル成型トレイの上からプレバソンフロアブル5を灌注処理します。発生が多い場合には、

ブロッコリーではフェニックス顆粒水和剤など、カリフラワーではプリンスフロアブルなどをていねいに散布します。

④ 夜間に葉を暴食するヨトウムシ類

ハスモンヨトウやヨトウムシ(トウガの幼虫)などが、夏まきでは8〜11月に発生します。成虫が卵を100〜200ほどの卵塊で産卵するため、小さい幼虫は集団で葉を食害します。幼虫は大きくなると体長が3〜4cmとなり、昼間は土の中に潜み、夜間に地上に現れて、葉を暴食します。発生が見られたら、ブロッコリーではフェニックス顆粒水和剤、プレオフロアブル、ファルコンフロアブルなど、カリフラワーではプレバソンフロアブル5などを散布します。

モモアカアブラムシ



コナガ



アオムシ



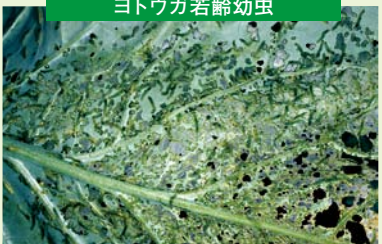
ハイマダラノメイガ



ハスモンヨトウ



ヨトウガ若齢幼虫



注) 毒劇物指定農薬は適切に使用・管理ください。

※文中で紹介している農薬は、タキイでは取り扱いのないものもございます。ご了承ください。また、農薬をご使用の際は必ず登録の有無や使用方法をご確認ください。(編集部)